



平成20年度文部科学省
大学教育改革支援プログラム実施報告書

ひとに優しい大学をめざして



個性輝く大学へ



輝いてきた学園



山口県立大学理事長(学長)
江里 健輔

平成20年度文部科学省大学教育支援プログラム実施報告書を御手元にお届け致します。支援2年目にあたります20年度は従来のGPに加えて国際化加速GP「英語で世界に発信する地域遺産教育の開発」が加わりました。

本年度はGP充実期にあたり、名実ともにいろいろな方面で目を見張るような成果が現れてきました。特色GPでは「Yucca」が地域交流スペースとなり、様々な活動を展開しました。

現代GPのうち「やまぐち多世代交流・地域共生授業の展開」では「地域が教科書・地元が先生」の理念が追求され、県立大学生と地域住民の信頼関係があらゆる場で深められました。現代GP「持続可能な社会に繋がる人的財産の育成」では環境と健康をテーマに、EA21のトップランナーとしての役割を果たしています。

学生支援GPでは総合的人間関係力を涵養する学生支援とし「大学⇄学生」「学生⇄学生」「地域⇄学生」間の活動が積極的に行われました。

社会人GPでは「生活習慣改善指導士」を昨年に引き続き認定し、国際化加速GPではLOLを駆使して「やまぐち地域遺産スタディーズ」を構築することができました。

文部科学省の支援で、教職員はもとより学生・地域住民が一体となり、お互いが共生し、信頼がGPを通じて深められたことは、本学が目指す「地域貢献型大学」として面目躍如と申しても過言ではないでしょう。本パンフレットをじっくりひも解いて欲しいものです。

山口県立大学の概要

■沿革

山口県立大学は、1941年に「山口県立女子専門学校」として発足し、1950年山口女子短期大学、1978年山口女子大学、1997年山口県立大学、2006年4月からは公立大学法人山口県立大学として地域と共に成長している。2007年4月より、全学共通教育の運営主体となる共通教育機構及び国際文化学部、社会福祉学部、看護栄養学部の3学部を設置し責任ある教育を開始し、さらなる躍進を続けているところである。なお、2007年4月1日付けで大学基準協会の基準に適合していることが認定された。

■教育理念と特色

本学の教育の基本理念は、人間尊重の精神、生活者の視点の重視、地域との共生、国際化への対応、の4点である。特に本学の位置する山口県は、急激な少子高齢化に伴う縮小型社会への対応を地域課題として抱えている。本学はこの課題解決に向けて、生命と生活の質を探究しつつ、生活者一人ひとりが健康で文化的に暮らせる対人支援を行う人材育成を目指している。「ひとに優しい」大学として、全ての学生が「自己へのケア」、「他者へのケア」ができると共に、生活を取巻く環境に配慮し行動できる「地球へのケア」の能力を培うため2006年9月には、国公立初のエコアクション21(EA21)認証を取得し、学生と教職員が一体となった管理・運営組織を確立した。

また、地域貢献型の大学として、地域共生センターを中心とした、地元産業との共同研究開発、県民対象の公開講座や高等学校への出前講義、県内7箇所のサテライトキャンパスでの知と技術の発信、社会参加活動に注目した生涯現役社会づくりを実現するための調査研究、支援活動を行っている。さらに、アジア、北米、ヨーロッパに姉妹校の大学と学術交流協定を結び、学生・教員間の交流を通して、異文化理解、国際感覚の涵養に努めている。

大学教育改革支援プログラム

Support For University Education Reform Program



「特色ある大学教育支援プログラム」は、大学教育の改善に資する種々の取組のうち、特色ある優れたものを選定、公表することにより、わが国高等教育の活性化を促進させることを目的として、平成15年度から実施された文部科学省の事業です。

平成19年度文部科学省「特色ある教育支援プログラム」採択

「重層的學生支援教育」による福祉人材養成

～学生の成長課題と専門教育課題の有機的結合による福祉的人間力獲得をめざして～

取組の概要

本学部の教育目標は、福祉専門職である社会福祉士（ソーシャルワーカー）養成である。

福祉専門職の専門性の基盤としては人間的成熟が不可欠であるが、近年の学生の一般的な傾向として社会性・主体性の脆弱化、あるいはモラトリアムの長期化が認められる。

そこで本学部では、各学年に配置された＜演習＞の授業にチュートリアル機能を付加して学部教育の基軸に据えるとともに、学年主任・副主任や学生委員、教務委員、就職対策委員、障害学生対策委員、学部学生相談員等が学科長を中心に＜学部教務会議＞を組織し、専門実習教育を担当する＜実習会議＞と連携して、チームアプローチによって重層的な教育支援を行っている。

その結果、社会福祉への動機付けを強め、国家試験合格率の上昇や福祉専門職への高い就職率を果たしている。また、在学生・卒業生からの評価も、本学部における＜人との出会い＞についての満足度が高くなっている。



「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」は、社会的要請の強い課題に対応したテーマに対し、特に優れた教育プロジェクト（取組）を選定・公表することにより、これからの時代を担う優れた人材の養成を推進することを目的として、平成16年から実施された文部科学省の事業です。

以下の6つのテーマのうち、本学はテーマ1、4の2件採択されました。

- 1. 地域活性化への貢献（地元型）
- 2. 地域活性化への貢献（広域型）
- 3. 知的財産・コンテンツ関連教育の推進
- 4. 持続可能な社会につながる環境教育の推進
- 5. 実践的総合キャリア教育の推進
- 6. 教育効果向上のためのICT活用教育の推進

平成19年度文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」採択

テーマ1 地域活性化への貢献（地元型）

やまぐち多世代交流・地域共生授業の展開

～山口市の都市部と田園部におけるワークショップ型授業による団塊世代と若者の定住促進～

取組の概要

存在感のある「地域貢献型大学」へ。これが法人化後の山口県立大学の目標である。1市4町が合併した山口市の都市部と田園部は、それぞれ異なる魅力と悩みをもっているが、山口県立大学では、その魅力の発見と悩みの解決をめざす住民主体のワークショップやフィールドワークに学生たちを送る多世代交流・地域共生授業を開始した。このボランティア経験に基づいて、ともに汗を流し智慧を絞る中で地域の魅力に深く触れ、地域の悩みの主体的な解決に携わらせる「地域づくり達人塾」方式を共通教育・学部教育で実施し、さらに地域リーダーが学生および地域参加者として多く集う大学院での地域共生授業につなげる。徳地町（現山口市）と県立大学との包括的提携を山口市全体に広げる予定であり、野田学園高校との包括的提携も生かして、地域・高校・大学・大学院が連携して、第二の故郷の魅力との出会いと、団塊世代と大学卒業者の地域定住促進を目指すモデル事業。

平成19年度文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」採択

テーマ4 持続可能な社会につながる環境教育の推進

持続可能な社会に繋がる人的財産の育成

～新生活スタートから持続可能な生活基盤づくりを支援する実践的環境・健康教育～

取組の概要

「ひとに優しい大学」を目指して、本学では「自己へのケア」、「他者へのケア」ができる人材育成を目標としている。その基盤に「地球へのケア」を嗜として身につけることが次世代を担う人材に必須の現代的教養と捉えた。環境や健康に対する配慮は継続的に取組むことが肝要であるため、日々の生活の中で環境と健康に配慮し、健全で健康的な生活基盤作りをし、環境に対する専門的学習を支援する教育プログラムを開発する。

本取組は、次の2つの教育課程から構成される。

- ①生活基盤形成時に学習習慣と共にCSRの意義を理解し段階的に学習習慣を身につける画期的な実践的環境教育及び実践的健康教育としての導入教育。
- ②専門的知識や実践力を培う教育課程として専門水準が担保された、副専攻「環境システム」の創設。これらを通して持続可能な社会に繋がる人的財産の育成を行う。

本取組は、地域の持続的環境改善や、社会的責任を果たせる人材育成としてのモデル的事业。

Good Practice=GP

GPとは文部科学省がその取組を評価し、選定、支援する「優れた教育への取組」をいいます。山口県立大学は地方小規模大学のメリットを活かした、地道で丁寧な組織的教育力が高く評価され、平成19年度特色GP、現代GP、社会人の学びなおしGP、学生支援GPのすべてに採択されました。

<http://blog.ypu.jp/gp/>



文部科学省が支援する多角的大学教育改革



「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」は学生の人間力を高め人間性豊かな社会人を育成するため、各大学・短期大学・高等専門学校における、入学から卒業までを通じた組織的かつ総合的な学生支援のプログラムのうち、学生の視点に立った独自の工夫や努力により特段の効果の上がっている取組を含む優れたプログラムを選定し、広く社会に情報提供するなど、各大学等における学生支援機能の充実を図るため、平成19年度から文部科学省が実施している事業です。

平成19年度文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」採択

総合的人間関係力を涵養する学生支援 ～大学と地域で作るプレ社会における実践的トレーニング～

取組の概要

本プログラムは、昨今の大学生の人と関わる力の低下を学生個々の能力の低下ではなく、生活経験や社会体験の不足から来るものと考え、学生支援の観点からその経験を補っていくことを目的としている。大学及びそれを取り巻く地域社会を現実の社会の前段階である**プレ社会**ととらえ、この**プレ社会**において、学生が大学や地域社会の要請に応じて様々な取組を行うことによって、学生同士は言うまでもなく世代や職種の異なる多くの人々と関わり、体験を通じて**自主・自立**の精神を養い、**総合的人間関係力**を身につけることが狙いである。これらの取組は、学生を大学のゲストではなくスタッフとしてとらえる**ジュニアTA制度**によって支えられる。特に、本学の校是「地域社会との共生」の実現のため、大学内に専門のコーディネート機関を設置して積極的に**地域との連携**をはかることにより、地域社会にも活力を与えるという双方向性を持つ。



「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」は各大学、短期大学、高等専門学校における教育研究資源を活用し、社会人の学び直しニーズに対応した教育プログラムを展開する優れた取組を支援するため、平成19年度から新規に「大学・専修学校等における再チャレンジ支援推進プラン」のひとつとして実施している文部科学省の事業です。

平成19年度文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」採択

行動変容を促進する栄養指導法を身に付ける栄養士キャリアアップ支援プログラムの開発

取組の概要

本事業は、**現職の管理栄養士**を対象として、行動変容を促進する栄養指導を行うために必要な実践的な能力を身に付ける教育プログラムを開発し、**山口県栄養士会**、**山口市**、**山口県と連携**して**栄養士キャリアアップ研修**を実施するものである。

本研修は講義、実習、演習で構成され、6カ月(2時間×15回)で修了する。実習は、本学が実施する「**山口県立大学(YPU)すこやかライフセミナー**」(地域住民を対象として、自分の体と習慣を知り、すこやかに暮らすための技を身に付けるセミナー形式の学習会)に管理栄養士として参加することによって行う。研修修了時、一定の基準に到達した者について、大学は履習証明を発行する。

本研修を受講した者は、保健指導対象者の病態や栄養評価に基づいて個別行動計画を提案する能力を身に付け、受講後はそれぞれの職域において、生活習慣改善のための取組を支援するセミナーを企画・運営することにより、地域の保健指導において中心的役割を果たす人材となる。



英語で世界に発信する地域遺産教育の開発 (LOLを取り入れた「やまぐち地域遺産スタディーズ」の構築をめざして)

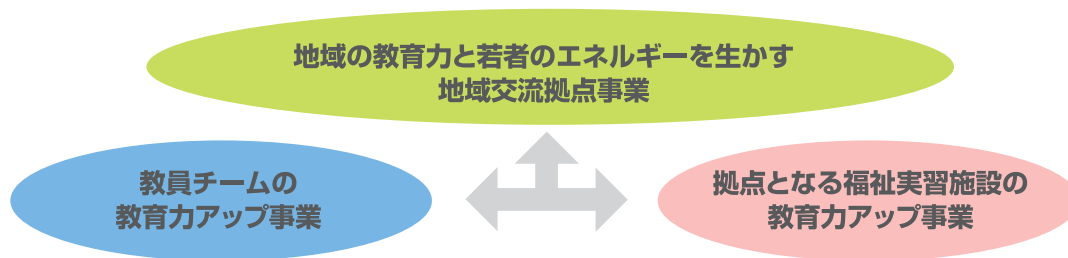
取組の概要

地域遺産を世界に発信する能力を培うことは、地方大学の教育の国際的通用性に不可欠な使命である。本学では、「英語で開講される科目」群を日本人学生及び留学生に国境を超えた学問的交流の場として提供してきた。この科目群を改善し、1) **地域文化を題材とした事前事後学習からなるコースワーク**を充実させ、2) **ラーン・オン・ロケーション**(以下、LOLと称す: Learn on Location、現地で学ぶ)の手法を取り入れた**教室内の講義と教室外の活動を組み合わせて**、3) **学んだ成果を英語で世界に発信する機会を設けた地域遺産教育プログラム**を確立する。そのため、先進的教育プログラムを有する**アメリカ3大学と3プログラムの視察**を行なう。「読む」「視る」「聞く」「解釈する」「表現する」といった多角的アプローチを導入し、講義で学んだ事柄と現地で体感するものとの溝を埋めながら、**生きた知識**を英語で語れる人材を育成する人文系教育の向上に取り組む。

重層的學生支援教育による福祉人材養成

～学生の成長課題と専門教育課題の有機的結合による
福祉的人間力獲得をめざして～

特色GPプロジェクト3つの柱



山口県立大学地域交流スペース



学生と地域住民とが多様な交流を深めるための拠点として『地域交流スペースYucca (ユッカ)』を開設しました。

Yuccaでは地域の教育力と若者のエネルギーを生かし合い、生き生きとした地域社会づくりに資する活動を創出します。学生はその活動への参加体験を通して、実践力あるソーシャルワーカーの基盤となる社会性や人間関係形成力を身につけるのです。以下はYuccaにおける多彩な活動プログラムです。



■ Baby Café (子育て支援プログラム)



地域の子育て中の親子のためのプログラムです。

子どもと一緒に楽しむ＜夏祭り＞や＜クリスマス会＞等の季節行事のほかに、今年度は、お母さんのための＜アロマテラピー＞や＜親子の絆を深めるベビーマッサージ＞の講座を実施しました。学生は託児ボランティアや「プログラム企画演習」等で企画立案や交流学习をしています。



ほんわか足湯



おっかなびっくり

この活動の中から、県立大卒業生による子育てサークル「Mommy's home」が立ち上がりました。



■ Oldies Café (異世代交流プログラム)

古き良きものを伝え合い、そして学び合うことを主旨とした地域の高齢者と学生の交流のプログラムです。

グラウンドゴルフやニュースポーツ等の介護予防活動と一緒に楽しんだり、＜桜餅作り＞をしました。



こつを伝授



初めての桜餅作り

秋には、4年次の学生グループが中心となって地域住民のための『認知症講座』を開講。認知症に関する基礎知識の講義から、認知症の家族会の方のお話、さらには認知症関連の施設見学までの、かなり内容の濃い連続講座になりました。



学生スタッフとのワークショップ



プログラムを説明する

■ ホットスペース ふらっと

地域で暮らす障害者の皆さんが、学生やボランティアの人々とおしゃべりをしたり、のんびり、ゆったり、楽しい時間を過ごす活動です。この〈ふらっと〉は、その名のとおりにフレキシブルであることとユーズフルであることをテーマにしています。梅雨明けには、夏のおやつ作りもしました。



レクリエーション風景



地域ボラの方の話を聞く

■ はーとボランティア講座

大学生が中心となって企画実施する〈高校生のためのボランティア講座〉です。夏休みを中心に実施しました。



よろしくね



高校生へ妊婦さん体験を指導

■ あなたも裁判員セミナー

ソーシャルワーカーの仕事には〈更生保護分野〉(刑期終了者の社会復帰)があり、基礎知識として刑事裁判制度をよく理解する必要があります。そこで法曹三者(裁判所、弁護士会、検察庁)と協力して、学生と地域住民を対象に、平成21年度から施行される裁判員制度のセミナーを実施しました。Yuccaでは、模擬裁判のワークショップが開かれました。



質問に答える検察官



有罪か? 無罪か?

■ 教員チームの教育力アップ事業

社会福祉学部教員による定例研究会や、FD合宿を実施し、毎回、白熱した論議が続きました。

また、複数の教員による〈ブックレット:副教材〉を4冊、さらに援助技術用のDVD教材を開発しました。



■ 子育てピアカウンセリング Yucca

乳幼児を子育て中のお母さんのためのプログラムです。子育ての悩みを、臨床心理士等とともに、ゆったりとした雰囲気の中で話し合うことで、小さな元気が生まれます。託児つきですので、お子さん連れでも参加できます。



学生が託児を担当



臨床心理士がファシリテーター

■ YuccaタンDEM・サイクリング・クラブ

タンDEMとは2人乗りの自転車のことです。筋力のない高齢者や障害者も一緒に楽しめるユニバーサルスポーツです。



サークルでは県内の福祉施設や総合支援学校を訪問したり、「企画演習」では盲人協会のみなさんと一緒にサイクリングを楽しみました。



■ 点字サークル プチポアン



さくら小学校よりお礼

プチポアンは、視覚障害者の皆さんの要望に応じて市内のレストランのメニューの点字化作業や地域の小中学校における点字教室のお手伝いをしています。

■ ぷちぼら (ぷちボランティアセンター)

学生による学生のためのボランティア情報センターです。

Yuccaを拠点として、学生のためのボランティア講座を開催したり、「ぷちぼらサイト」の運営を行っています。



■ 拠点となる実習施設の教育力アップ事業

社会福祉実習で配属される施設・機関の実習指導者の皆さんとの研修会を開催しました。

また「精神保健福祉士の実習の手引き」を、教員と現場の実習指導者が協働して作成しました。

やまぐち多世代交流・地域共生授業の展開

～山口市の都市部と田園部におけるワークショップ型授業による団塊世代と若者の定住促進～

現代GP (地域の活性化・地元型) 2008年度の取り組み紹介

- <1> 地域共生授業を題材にしたドキュメンタリー映画づくりを地域・学生と共同で開始。
- <2> 山口市との包括的連携協定によって地域再生計画を具体化。

現代GP地域の活性化・地元型 2008年度の主な成果

1. 「地域が教科書・学校であり地元のみなさんが先生」という理念の確立と教育・交流の実践

A. 地域と大学の係わりの根幹に「人間的信頼関係」を おいて授業を展開し記録を作成

教養科目・地域共生演習を11カ所で展開。参加人数は学生55人、地域住民は100名以上に

学部授業「地域実習」で外国人学生とともに2週間合宿して農村でのボランティア活動

国際文化学部卒業論文で民族学者・考古学者の國分直一氏のフィールドノート第一次整理とまとめ

大学院「NGO・NPO特論」を地域交流拠点で合宿して実施。各自が現地調査をして報告

地域住民向けに「大学を生かした地域づくり」の事例集ブックレットの編集・印刷

「学生向け」「地元住民向け」「大学職員向け」の地域共生ブックレット3部作をめざす

B. 学生・教員・地域住民 が相互にエンパワーで きる仕組みづくり

地域で活躍するリーダーを非常勤講師に招聘する授業を展開(教養科目・学部・大学院)

「世界の百歳人に学ぶ」第2回やまぐち地域再生フォーラムに地域住民ら80名が参加

山口国際文化学研究会と健康福祉学研究会の共催、山口市の後援で地域再生フォーラム

C. 学生・教職員と地域の 相互交流の促進

図書館づくりの一環として回想法の研究発表を地域で実施(図書館情報学授業)

阿東町において高島北海とジャポニズムをめぐるファッションショー(生活文化論授業)

地域リーダーが次々と本学大学院に入学して地域活性化をテーマに研究と交流を開始

2. 「あってよかった」から「なくてはならぬ」と地域で頼りにされる大学への歩み

D. 露出度をたかめつつ「目が離せない大学」として注目度上昇中

①「現代GP 地域の活性化・地元型」の趣旨を踏まえ、山口市との連携を具体化しつつ、地域再生計画の数値目標達成に近づいている

定着しつつある地域づくり達人塾の活動例とその発展

山口市徳地。周防大島の交流でスローツーリズムと農家民宿等のプロジェクト推進中

山口市全域。市民ディレクターのNPOとの共同で、ドキュメンタリー映画作り勉強会

山口県全域。山口県環境保全型農業推進研究会などのスローフードネットワーク支援

山口市秋穂。図書館づくりを考えるNPOとともに、山口市秋穂に学生が通う

山口市宮野。マロニエの森の会と学生が大学内に設置した森林公園で子どもたちが遊ぶ

やまぐち手作り職人塾(仮称)など山口市内の2団体をあらたに地域づくり達人塾に指定

山口市との提携の深化へ

山口市地域再生計画の目標。卒業後も地域に係わる学生10人以上、地域作り塾生80人程度

徳地づくり達人塾を母体として健康茶企業組合発足。「地域資源∞」の助成で新製品開発中

2008年2月の山口市と県立大学との包括的連携協定を機に、さまざまな提携を模索中

②他地域とも他流試合する経験をつみ情報発信を習慣づける

第2回やまぐち地域再生フォーラムはソウル大学校の全京秀教授を迎え韓国との交流の中で実施

全京秀教授の「百歳人研究と長寿人類学」を翻訳してフォーラム参加者と地域に配布

GPと教員のブログでの情報発信が550ページを超える。
<http://blog.you.jp/>

E. 地域住民向けの情報発信と多彩な交流を通して具体的な地域との連携の実績があらはれ始めている。

①山口市における行政と地域住民と大学生がかかわる情報発信

地域共生演習の内容を紹介する手軽なパンフレットを作成して地域に配布

市報地域版「ふるさととくち」12回の編集発行に学生が参加(徳地づくり達人塾関連)

山口市報新年特集号を山口大と県立大の学生が取材してまとめること作成(地域実習授業)

②地域団体との連携の実践とその効果

山口驚流狂言保存会を地域のアイデンティティを高める達人塾として指定し支援を開始

学内の自転車再生サークル「えこチャリ」へ地元企業が卒業生を指導者として毎週派遣

地域共生実習がテレビで詳しく報道された徳地申地域、朝日新聞の「ふるさと百選」に選定

③学生が地域の国際化をめざして情報発信

留学生が個人的に大好きな山口市内のスポットを紹介するビデオレター(DVD30分)作成

学生がつくる「韓国ジャーナル」3号まで作成され、やまぐち地域の国際化に貢献

「やまぐち中日文化交流会」が発足し、地域に向けた旗揚げ講演会を実施

F. ドキュメンタリー映画の作成と配布の開始

地域共生授業のドキュメンタリー映画「地域が学校・地元が先生」第一部120分が完成

DVD1000部を全国と地域に発送するとともに次年度の巡回上映会を計画

さまざまな取り組みの現場から (A.~F.は左図に対応)



A. 地域共生演習 山口市荒高「もりさま祭り」



B. 第2回やまぐち地域再生フォーラム



C. 大学院授業「NGO・NPO特論」



C. 秋穂新図書館づくり(回想法フォーラム)



D. 徳地づくり達人塾で地引網体験(周防大島)



E. 「ふるさととくち」の編集



F. 地域共生授業ドキュメンタリー映画 DVDカバージャケット

来年度の計画から

<1>山口地域再生

卒業後もやまぐち地域とかかわり続ける人たちを10名以上、地域づくり達人塾のメンバーを80名程度という、山口市地域再生計画を達成するとともに、GP終了後、在学生・卒業生が地域リーダーとして地域づくり達人塾を活性化していけるように積極的に支援する。

<2>実践の過程をわかりやすく情報発信

「地域と大学ブックレット」として、1年目の「調査被害を考える」、2年目の「大学を生かした地域づくり」にひきつづき、教職員向けの「地域を生かした大学づくり(仮題)」を作成する。ドキュメンタリー映画「地域が学校・地元が先生」では、田園地域を主とする1年目に続いて、市街地での活動を中心に描く第2作を作成する。

持続可能な社会に繋がる人的財産の育成

～新生活スタートから持続可能な生活基盤づくりを支援する実践的環境・健康教育～

環境と健康の視点から取り組むESD

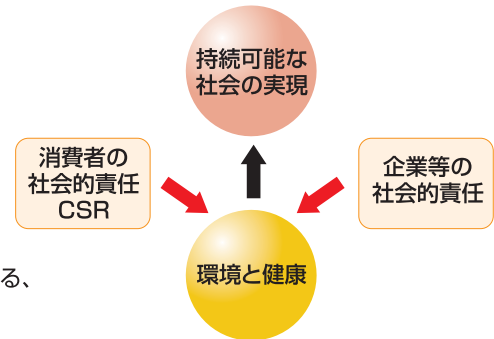
地球市民としての自覚形成を目指して

1. 企業の社会的責任
2. 消費者の社会的責任
3. 地球市民の社会的責任

の重要性を理解し、多角的総合的に現象を捉え、自ら行動できるそんな次世代の担い手を育てる教育を提供することが大学の社会的責任である、と考えます。

ESD基盤づくりとしての初年次教育と副専攻

1. キャンパスルーキーの生活基盤形成時に、環境と健康を配慮した行動ができるよう、持続可能な実践教育を展開しています。
2. 副専攻では、全学部学生に社会的ニーズの高い専門的「環境システム」の学習機会を提供し、創発的プロセス思考や実践力を身につけるESDを展開しています。



健康を維持する環境づくり

進化する教育プログラム

Plan-Do-Check-Act

継続的発展には欠かせない手法です。

生活基盤の中に環境配慮を浸透させる実践的環境教育

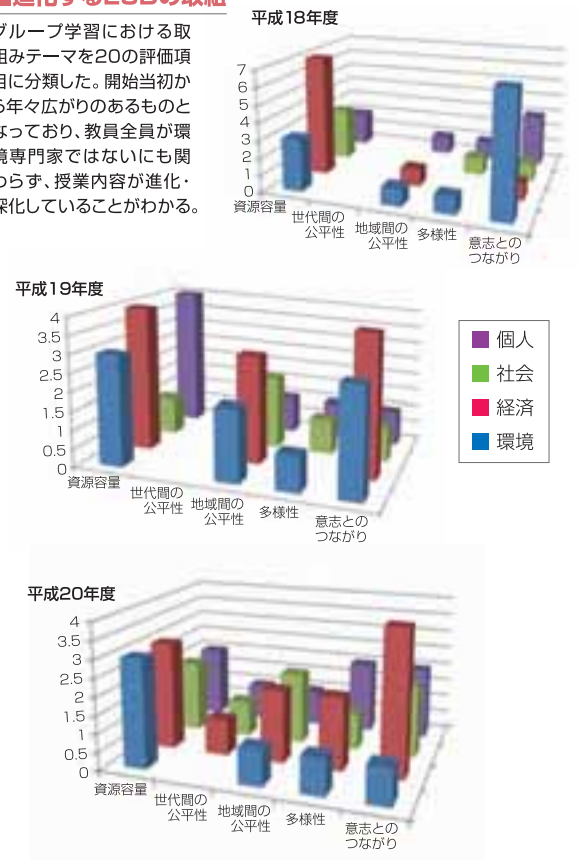
実践的環境教育では、日々のキャンパスライフと環境負荷との関わりを題材に、現状把握を行います。EA21の取組目標や、身近な生活の中で環境負荷軽減に関する課題を設定し、PDCAに則って実践的グループ学習を行います。環境に関する先端的知見は学外より専門家を非常勤講師として招聘し、学生の専門分野（国際、福祉、保健）と環境との関わりを理解を深め、Think globally, Act locallyの本質を理解します。外部評価を取入れ、教育プログラムの継続的進化を可能にしています。

環境に配慮した健康なライフスタイルの確立を可能にする実践的健康教育

実践的健康教育では、キャンパスライフと健康の関わりについて、自己管理のためにライフスキルを学びます。自分の健康度や生活習慣の現状把握をした上で、PDCAに則って実践し、望ましい生活習慣への行動変容を促します。体験を通して健康的なライフスタイルと環境負荷軽減の関係を学ぶことにより、健康と環境の関わりを理解します。健全なライフスタイルの構築を阻む要因については、専門家による公開授業として実施し、自己の生活と密接に関わる問題であることを認識させます。

進化するESDの取組

グループ学習における取組みテーマを20の評価項目に分類した。開始当初から年々広がりのあるものとなり、教員全員が環境専門家ではないにも関わらず、授業内容が進化・深化していることがわかる。



社会的ニーズにこたえる副専攻「環境システム」

本年度創設を目指している副専攻「環境システム」では、本学で構築しているEMSを教材として活用し、実際のEA21の管理運営、内部監査、環境報告書作成等を通して、EMSの理解や実践的活動、EMS構築支援ができる能力を身につけるカリキュラムを設定します。他大学との情報の共有を図り、ESDの充実を図っています。また、実践力の強化として、EMSを構築運営している企業等でのインターンシップや環境ボランティア活動も単位化します。この教育課程を通して、すべての業種で必要とされる社会的責任を果たせる人材を育成します。



学生と教員の共進化を可能にする教育プログラム

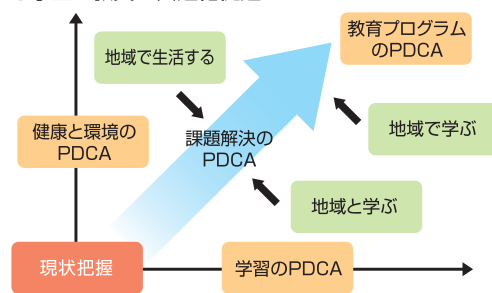
新しい教育の形へ

専門教員が作成した授業ガイドラインと成果をフィードバックする体制を整備することで、多人数の教員が、共通のテーマで専門外の教育に携わることを可能にする教育方法です。他の授業科目との連携は従来の縦割り授業の弊害と非効率性を解消するものとして注目に値します。透明性・公平性の確保:電子掲示板と授業評価コメントボードの活用により「仲間が見える」、「全体が見える」体制を整備しています。閉鎖系で実施される従来の授業形態では期待できなかった教育効果が得られます。

複眼的視野を涵養するために

低学年時の生活基盤・思考基盤形成時における多角的視野の涵養の重要性から、学生のグループは約10名の少人数で学部横断的に構成しています。また、約30名のグループ学習指導教員の組合せも学部横断的に構成しています。授業時間外に学外等で展開される学生の活動はグループ指導教員が責任を持って支援しています。

●学生と教員の共進化促進プログラム



実践的基礎学習能力の習得も

実践的環境教育・実践的健康教育に並行して、情報教育との連携を充実させ、基礎的学習スキルの習得を目指しています。IT活用能力は実践的現場で活用されて初めて身に付くもので、本取組では情報教育の進度に対応した学習課題を出し、IT活用能力を定着させる仕組みを構築しています。

環のキャンパス、大学間交流・・・山口発の学生トレンド

全国の大学を先導する環境活動へ

- 「ISO学生会議」全国大会に参加しEA21トッランナーとしての役割を果たします。
- 環境「みらい」サミットを開催し、アジアと向き合う西日本の大学生・高校生が一堂に会し、近未来の地球環境を守るべく、全国に向けて若人のメッセージを発信します。
- 「エコプロダクツ展」に出展し、実践的環境・健康教育の成果を公表します。
学生主導でEMSを構築している大学を応援します。
全国の大学間交流が拡大すると同時に、大学を超えた学生間の環境ネットワークが形成され、全国的な学生トレンドとしての「環境配慮行動」へ発展させよう。

そして、大学の社会的責任として

副専攻「環境システム」の創設は、本学の従来の学部教育で得られる各種資格(社会福祉士、看護師、管理栄養士、教員資格等)に加えて、EMSを理解し、実践することができる人材として大学が認定するためのカリキュラムです。副専攻「環境システム」の修得により得られる資質は、すべての業種において求められるCSRの基盤であり、本学が責任を持って社会に輩出する人的財産です。



基礎教育と副専攻「環境システム」で継続的な環境教育

多角的な学習を求められる「持続可能な開発のための教育(ESD)」に基づいたカリキュラムを展開するために、以下の構成での授業科目体系を実施します。受講生が、社会人として持続可能な社会システム作りに対応できる「発想力」、「システム思考と実践力」を習得することを目的とし、最新のマネジメントシステム手法(シックスシグマ:プロセス改善とプロセス設計/再設計)をベースとした授業科目構成としています。本学が認証取得しているEA21を教材とし、理論と実践を織り交ぜたスパイラル構造の教育カリキュラムを実現することで、効率よく実践力を培うことができます。また、特別な設備や専門的知識がなくても工夫次第で効果・成果を上げることができるよう、目に見える実習、対話する講義を展開します。



環境理論特別講義では、現場で取組む人と共に、世界が目指すもの、地域ができること、企業がなすべきことを総括的に学習し、課題解決の手法を学びます。

総合的人間関係力を涵養する学生支援

～大学と地域で作るプレ社会における実践的トレーニング～

学生活動支援センターの設置

学生支援GPは、昨今の大学生の「人と関わる力」の低下を、学生個々の能力の低下ではなく生活経験や社会体験の不足から来るものと考え、その経験を補っていくことを目的としています。そのために平成20年度には、学生支援部の中に新たに「学生活動支援センター」を設置しました。学生活動支援センターでは専任職員（学生活動コーディネーター）3名、教員（兼任）2名の計5名を配置し、学生活動の活性化に向けたさまざまなサポート業務を行っています。



「学生スタッフ」制度

「学生スタッフ」制度は、学内のさまざまな公的活動に学生をスタッフとして雇用し、奨励費を支給することで、大学の構成員としての自覚や責任を持ってもらうことだけでなく、経済的支援を行う事も目的としています。平成20年度は、延べ200人の学生が計3,300時間の活動に従事しました。

平成20年度 学生スタッフ活動一覧

大学行事補助

入学式・卒業式運営補助
オープンキャンパス・ミニオープンキャンパス運営補助
就職ガイダンス、合同企業・病院説明会運営補助
環境「みらい」サミット運営補助
大学GPフォーラム（健康と環境）運営補助
マルチリンガル・スピーチコンテスト運営補助
県立大学フェスタ運営スタッフ

大学内業務補助

遠隔講義における通信装置の操作補助
「医学」（基礎科目）の授業補助
図書館司書業務補助
地域文化の再検討（附属郷土文学資料センター所蔵資料のデータ化）
栄養教諭の専門性の高度化に関する先導的プログラム開発研究会に伴う編集作業
憩いと思いやりのある場づくり（学生による駐輪・駐車マナーアップ活動）

学生相互の支援（留学生・下級生支援など）

ピアサポート活動
交換留学生の日本語チューター及び生活支援
外国人留学生向け生活ハンドブックの原稿作成、翻訳作業等
受験生おもてなし

オープンキャンパス運営補助

参加した高校生と保護者の方々に対する案内や誘導係として活動しました。平成20年度本学に入学した1年生も、しっかりとした様子で学内の案内や説明をしていました。



憩いと思いやりのある場づくり （学生による駐輪・駐車マナーアップ活動）

学内を巡回し、声かけを行いながら、学内の環境美化とマナーアップ意識の向上に取り組み、駐輪禁止スペースにあふれる自転車を整理し、マナー違反の自転車・自動車には張り紙をしました。マナーアップ活動とあわせて、「放置自転車の整理」の札付けも行いました。



YPUドリームアドベンチャープロジェクト2008

大学生生活をより良くするために学生・院生が自分たちの力を発揮する場として、平成18年度から「YPUドリームアドベンチャープロジェクト」を実施しています。YPUドリームアドベンチャープロジェクトとは、大学生活をさらに楽しく豊かにするために、学生（個人やグループ）が自主的に企画・運営する独創的で魅力的なプロジェクトに対して、大学が費用を補助することで夢の実現を支援する事業です。

(YPU:Yamaguchi Prefectural University
（山口県立大学）の頭文字をとったもの）



YPU「ゆめの森」づくり



宮野交流会

YPUドリームアドベンチャープロジェクト2008 採択プロジェクト

お弁当の日 (大学生の食意識向上を目指した交流の場の提供)	大学生の食意識向上と地域交流を目的とし、テーマに沿った料理を各自持ち寄る。学部学科、教員、学生を超えた情報交換や、食について話し合う時間の提供と、「おいしく・楽しく・学べる」場の提案。
心も体も健康になる「ヘルサー」	地域の高齢者を対象とし、学生との交流会を通じて身体・精神・社会的に両者が健康になること、また学生と地域とのコミュニケーションの促進を目的とする。測定やアンケート実施により、プロジェクトの成果を問う。
宮野交流会 ～地域の方と料理教室～	山口の料理や特産をテーマに、地域の方と学生の交流の場となる料理教室の提供をする。
YPU「ゆめの森」づくり	地域と連携し、大学の自然環境の整備を図る。両者が協力しながらシイタケの栽培を行うことを通じた、学生への学習の場の提案、また自然公園として大学の森を地域に開放する。
YPU WORLD BAZAR	3回のイベントを通じて、小・中学生の異文化や国際問題への興味を引き出すことを目的とする。地域の留学生・外国人が交流し、国際意識と相互理解、両者のつながりを深める。
県大発 自然体感プロジェクト及びエコアクション21学生委員会活動	県内の一般公募者とともに環境について見直す、体験型環境教育イベントの実施を提案。
「釜山からもおいでませ山口へ」調査隊	関釜フェリー利用者にアンケートを実施し、山口県の観光の実態を調査する。地域の活性化や、山口・福岡・釜山の3都市連携の観光産業を発展させる手がかりとする。

県立大学フェスタ2008

地域において、学生のさまざまな活動を紹介するための初の試みとして「県立大学フェスタ2008」を開催しました。高校生・保護者の方を中心とした地域の方々約100名にご来場いただき、無事終了することができました。

なかでも学生や教職員による相談コーナーは盛況で、親子で入試に関する質問などをする様子が見られました。子供たちには、2人乗り自転車タンデムや、EA(エコアクション)21学生委員会のごみ分別ゲームが人気でした。他にも韓国民族打楽器サムルノリの演奏、また高齢者の疑似体験コーナーなど、他ではなかなか味わえないようなプログラムも充実し、「県立大学フェスタ」にふさわしい内容となりました。

多目的シアターでは、音楽系サークルの演奏や踊り、演劇の他、「県大一受けたい授業」として4人の教員によるミニ講義を開講しました。



さまざまな学生活動の支援

ファシリテーター講座

「ファシリテーター講座」は学生支援GPの「体験型セミナー」として実施したものです。

“ファシリテーター”とは、会議や集会など、人が集う場所でのコミュニケーションを円滑にし、メンバーそれぞれの経験や知恵や意欲を上手に引き出していく進行役です。講師3名を迎え、全3回にわたって、「ワークショップってなに?」「体験! 目からウロコのワークショップ」「スゴイ! 会議進行のワザあれこれ」をテーマに、実際にワークショップを体験しながら進められました



ファシリテーター講座

ピアサポート活動

ピアサポーターとは、新入生がキャンパスライフになじんでいくまでの期間、学生生活上の諸々の相談にのる、上級生の学生ボランティアスタッフのことです。9月にはピアサポーターを養成する合宿研修を2日間行いました。



ピアサポート活動: 研修風景

地域からの各種要請の受託と地域への学生派遣事業

小学生対象 なつやすみの宿題ボランティア

「小学生のためのなつやすみの宿題楽しく学ぼう会」を開催し、3日間にわたって学生ボランティアが小学生のなつやすみの宿題のサポートをしました。



放課後子ども教室ボランティア

10月から、地域の大人とともに、本学の学生ボランティアが子どもたちの学習相談等に応じる「放課後子ども教室」のサポートをしました。



地域災害ボランティア

10月に「災害ボランティア講座」を開催しました。



炊き出し会の様子

広報・HP

HPを開設し、学内掲示とあわせて、学生スタッフ募集やイベントの開催予告などを随時行いました。

(<http://blog.ypu.jp/gakukatsu>)

学期ごとに広報誌「かえるのうた」を発行し、学内・地域に配布しました。(16ページ参照)



地域と大学が共に育つ専門的学習機会の提供

～行動変容を促進する栄養指導法を身に付ける 栄養士キャリアアップ支援プログラムの開発～

地域共生センターがつなぐ

山口県立大学附属地域共生センターは、「産学公連携推進部門」、「生涯学習部門」、「高齢部門」の三部門から成り、本学の教育、研究機能を活用して、それぞれ共同研究、受託研究の推進や共に育つ生涯学習機会の充実、心豊かな高齢社会づくり、生涯現役社会づくり等を、地域と大学のインターフェースとなって進めています。この事業は、「生涯学習部門」のキャリアアップコースとして、文部科学省より「社会人学び直しニーズ対応教育推進事業として委託を受けて実施し、本年度で2年目になります。

YPUすこやかライフ研究会

平成19年度に引き続き、学内委員10人（看護栄養学部教員6人、附属地域共生センター4人）と学外委員3人（山口県、山口市、山口県栄養士会）からなる「YPUすこやかライフ研究会」を置き、教育プログラムの研究、開発、評価、「生活習慣改善指導士」認定に係る審査等について、研究、協議を進めて、この事業の効果的な実施を図ってきました。平成20年度は4回（4月10日、9月25日、12月25日、1月29日）開催しました。

栄養士キャリアアップ研修

昨年度に引き続き、「メタボリックシンドロームの考え方に基づく保健指導」をテーマに栄養士キャリアアップ研修を5月～11月にかけて6ヶ月間にわたって実施しました。

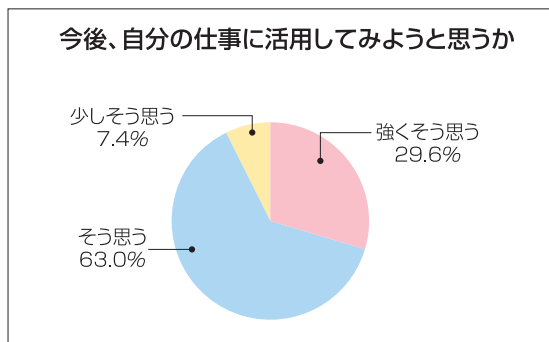
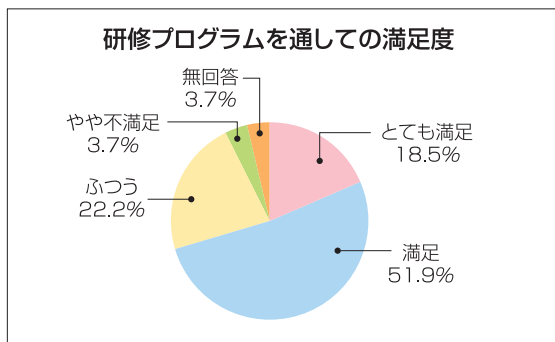
研修は2日間（10時間）からなるベーシック・コースと、ベーシック・コースの履修に加えて、「YPUすこやかライフセミナー」をフィールドにして8回の実習と2回の演習、1回の成果発表会からなるアドバンスト・コースの2つのコースを開講し、保健医療機関、事業所、自治体、在宅栄養士などに現職の管理栄養士の方々に参加しました。

ベーシック・コースでは、メタボリックシンドロームの病態、診断、治療の概要、身体計測および栄養・身体活動調査の方法に加えて、今年度はグループ学習会運営のためのコミュニケーション技術に関する講義と実習を加え、研修内容の充実をはかりました。

ベーシック・コース修了者を対象にしたアンケートでは約70%の人が「とても満足」あるいは「満足」と回答し、90%以上の人が「今後、自分の仕事に活用してみようと思う」と回答しました。



キャリアアップ研修開講式での学長挨拶
(平成20年5月24日)



「YPUすこやかライフセミナー」では、身体活動を高める工夫、食生活の工夫、ストレスとの付き合い方などをテーマに行われる少人数のグループによる学習会の司会と運営について実習しました。実習では、対象者の問題点を指摘するのではなく、対象者自身が気づき、生活習慣の改善と各種測定値の変化の関係を理解することを促す支援方法を身につけることに重点を置きました。今年度は、2時間の学習会の前1～2時間使って事前準備を行い、終了後約1時間使って反省会と対象者の方へコメント返しを作成するなど、実習の教育効果を上げる構成にしました。

演習では、調査結果を統計学的に処理するために実際にコンピュータを操作しながら学習しました。

成果発表会では、担当した対象者のケース・レポートを発表し、討論を行いました。さらに、今年度は、昨年度の修了生による活動報告会を開催して情報交換を行いました。



調査結果に基づいて行動計画を作成



昨年度修了生による活動報告会

「生活習慣改善指導士」認定

ベーシック・コースは32人が受講し、そのうち10人がアドバンスト・コースを受講、10人全員がアドバンスト・コースを修了しました。さらにアドバンスト・コースの10人の方がケース・レポートを提出して「生活習慣改善指導士」の認定をうけました。



「生活習慣改善指導士」認定証授与式
(平成21年2月11日)

すこやかライフセミナー

メタボリックシンドロームが気になっている地域住民を対象にした「すこやかライフセミナー」に山口市在住の20人(男性5人、女性15人)が参加登録して6月～10月にかけて5か月間にわたり実施しました。

このセミナーは従来の知識伝達型の健康教室とは異なり、身体計測、血液検査、栄養と運動の調査の結果に基づいて、セミナー参加者自らが自身の体の状態、生活習慣の問題点を認識し、それに基づいて自分で行動目標を決めて、6ヶ月間にわたり生活習慣の改善に取り組むというものです。

セミナーでは定期的に行われるグループ学習会を通して、食生活・運動の工夫やストレスを乗り越えるスキルを学び、さらに励まし合うことにより連帯感を強めました。望ましい生活習慣が継続するよう、対象者一人ひとりの取り組み状況を把握し、郵送により個別にコメントを送るなど支援方法の工夫をしました。その結果、セミナー終了時には約1kgの体重減少を達成しました。

その他、昨年度のセミナー参加者による同窓会を開催し、お互いに近況報告をして、今後の取り組みへ継続の励みにしていました。

YPUすこやかライフセミナー参加者を対象にしたアンケートでは90%の人が「とても満足」あるいは「満足」と回答し、60%の人が「セミナー後も定期的な集まりに参加したい」と回答しました。



簡単レシピで野菜をたっぶり



兄弟山でハイキング(同窓会)



タオルエクササイズでいい汗かこう

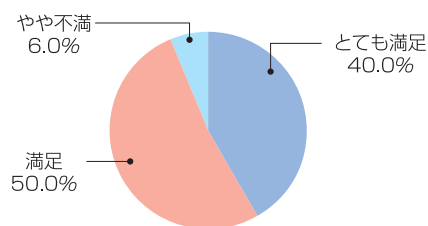


勉強会後の発表

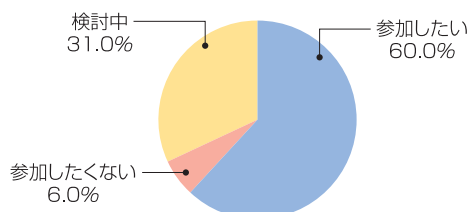


YPUすこやかライフセミナー修了式(平成20年10月25日)

セミナー全体を通しての満足度



セミナー後も定期的な集まりに参加したいか?



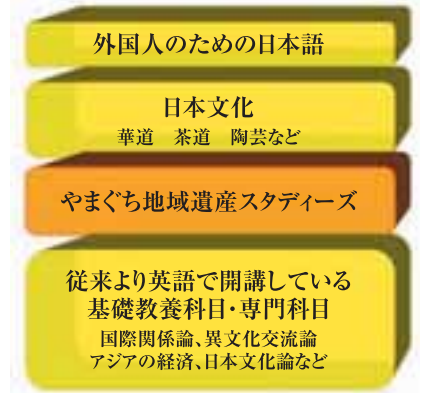
英語で世界に発信する地域遺産教育の開発

～LOLを取り入れた“やまぐち地域遺産スタディーズ”の構築をめざして～

「やまぐち地域遺産スタディーズ」とは？

従来、主として「英語圏からの留学生」と「英語能力向上を目指す本学学生」を対象に英語で開講していた授業科目を4種類のカテゴリーに分け、特に中心となる地域遺産スタディーズを新たに設けて命名しました。

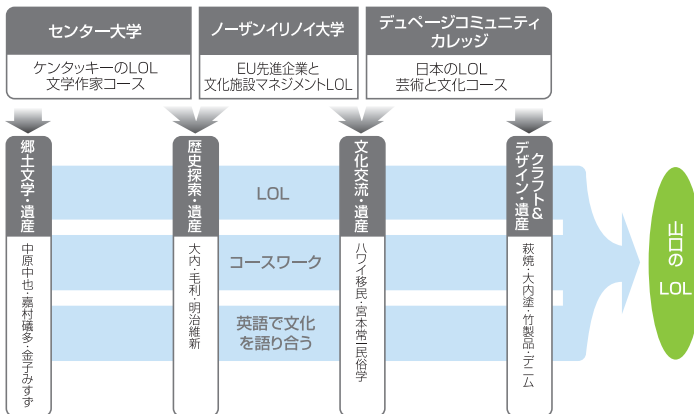
- それらは、①「郷土文学遺産」 ②「歴史探訪遺産」
③「文化交流遺産」 ④「クラフト&デザイン遺産」からなります。



英語で開講される科目群の将来像

LOL (Learn on Location) とは？

机に座ってテキストを読みとく従来の教育方法から脱し、学んだことを現場で確かめる機会を取り入れたり、現場を歩きながら学ぶ機会を取り入れたりしながら、教室／事前学習ー現地教育ー教室／事後学習を組み合わせた15週、あるいは数日間から2～3週間にわたる集中的な科目の運営の仕方を言います。「現地学習・現地研修 (Learn on Location)」「地域へのトリップ」「地域へのエクスカージョン」「地域でのフィールドワーク」「体験学習 (experiential learning)」など、呼び方は様々です。欧米では文学や法学、哲学や宗教学などでもこの手法が取り入れられています。

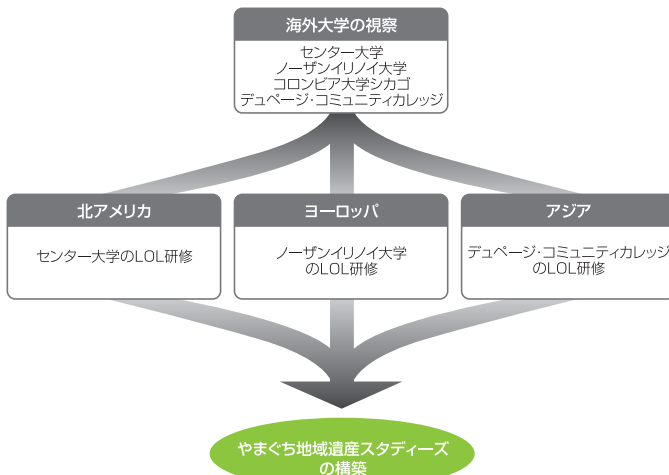


プログラム構築までの流れ



海外先進教育視察 (2008年9月)

平成20年9月、アメリカの3大学と、その内の一大学から推薦されたコミュニティカレッジを視察しました。



やまぐち地域遺産スタディーズの試行(2008年11月~2009年1月)

「郷土文学遺産」と「クラフト&デザイン遺産」の2科目の試行を行いました。残り2科目は平成21年度以降の試行となります。



海外研修(2009年1月~3月)

2009年1月から3月にかけて3つのプログラムに参加し、科目デザインやシラバス作成、授業の運営や指導方法、課題や自主学習の出し方、学生の評価等について研修を行いました。この成果を、「やまぐち地域遺産スタディーズ」の構築に生かします。具体的には、学生に自主的に学ぶ態度を身につけさせる次のような点が参考となりました。

- 教室での事前・事後学習を約3割程度、現地学習を約7割程度とするようなバランスを考慮すること。
- 事前に読むべき課題図書や資料等を配布し、下調べをしたノートを準備させること。
- 講義では自主学習ノートをもとに質問や発表をさせる能動的な学習態度を求めること。
- グループ学習を通して現地での体験的な学習へのモチベーションを高めていくこと。
- 訪問する機関や施設、団体、場所等について、グループ別に分かれて調べたことをプレゼンテーションさせて知識を共有し、現地訪問や現地調査、現地学習に関する技術面に関するガイダンスを徹底すること。
- LOL期間中は毎日ジャーナルを必ず記録させ、データを集積させること。
- レポートの作成基準を明確にすること。
- 事後学習で学んだことを自分の言葉で表現させ、発信させること。
- 評価項目や評価基準、評価シート(自己評価、ピア・グループ評価、教員による評価等)を事前配布すること。

平成20年度出版物紹介



特色GP

教員チームによる教材ブックレット

- 青年期の危機とケア
- 生と死の人間論
- 発達障害の理解と支援
- 今を生きる子どもと家族

教材DVD

- 面接の基本



現代GP (地域の活性化・地元型)

地域の活性化ブックレット

- やまぐち地域再生フォーラムの記録 (左)
- 2008年度地域住民用
「大学を生かした地域づくり」(中)
- 2007年度学生用
フィールドワークハンドブック(右)

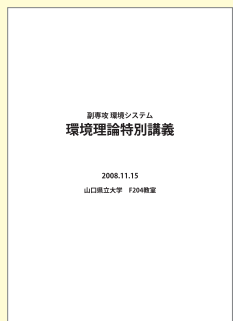


環境「みらい」サミット

環境と健康フォーラム



環境報告書2008



環境理論特別講義資料

現代GP (環境)



県立大学フェスタ2008
ポスター
パンフレット

広報誌「かえるのうた」



学生支援GP



社会人GP

平成20年度報告書

行動変容を促進する栄養指導法を身に付ける栄養士
キャリアアップ支援プログラムの開発



国際化加速GP

国際化加速プログラム取組紹介パンフレット

英語で世界に発信する地域遺産教育の開発
～LOLを取り入れた“やまぐち地域遺産
スタディーズ”の構築をめざして～

平成21年度合同フォーラム

山口県立大学GP合同フォーラム開催

2009
11
14
sat
13:00～

場所：山口県大学
講堂ほか看護学部棟

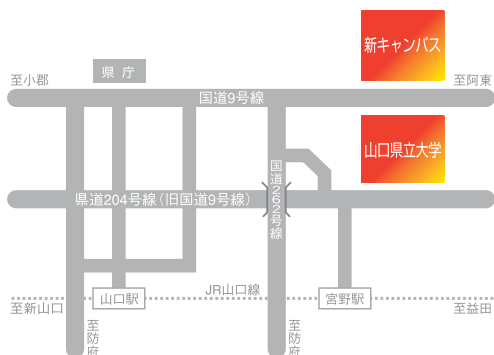
プログラム

- 開会挨拶 及び GPの全体説明
- 基調講演
山極寿一氏（京都大学大学院理学研究科教授）
- 分科会
特色GP 現代GP（地域活性化への貢献・地元型）
現代GP（持続可能な社会につながる環境教育の推進）
学生支援GP 社会人GP 国際化加速GP
- 交流会

お申し込み（お問い合わせ）：山口県立大学 プロジェクト支援室
TEL:083-928-3437 FAX:083-928-3447



- 広島・福岡方面から、新幹線新山口駅下車／車で35分（バス40分）
- 益田方面及び新山口方面から、JR山口線宮野駅下車／徒歩3分
- 山口宇部空港より車で80分




 公立大学法人
山口県立大学
 Yamaguchi Prefectural University

〒753-8502 山口県山口市桜島3丁目2番1号
 Tel.083-928-0211 Fax.083-928-2251
<http://www.yamaguchi-pu.ac.jp/>